【普通科】　１年次　【必修】科目「 世界史Ａ 」授業のシラバス

1　概要

教科名	地理歴史	科目名	世界史Ａ	単位数（コマ数）	２単位（78 コマ）
科目の目標	①諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連づけ、現代の諸課題を歴史的観点から考える。 ②歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚や資質を養う。				
教科書（出版社）	新版世界史Ａ　新訂版（実教出版）			副教材（出版社）	新版世界史Ａ新訂版　完全準拠演習ノート 最新世界史図説タペストリー　一七訂版

2　学習の方法

(1)　予習について

特に必要としませんが、少なくとも毎時間、教科書などを用意した最低限度の授業をうける準備ができていることが求められます。ただ、欲を言えば、その日の授業単元の部分について、教科書を音読し歴史の流れをつかみ、準備を整えたうえで授業に出席して欲しいと考えます。高校は授業に規定に定められた時間数以上出席し、所定の考査（テスト）、課題提出などの条件をクリアした人に単位を認定します。単位を認定されなければ、3 年間での卒業は望めません。そのあたりが小中学校の単位認定、卒業とやや異なる部分でしょう。授業の準備とは、「単位を取得する」ということの入り口に立つ大切な作業なのです。

(2)　授業について

地歴公民科は授業で学習する情報量が他教科と比べると多い教科の一つといえます。したがって、復習との関係から必ずノートをつくる習慣を早期に身につけてください。小中学校までにノートをつくる習慣が身についている人でもなかなか大変ですが、ノートをとりながら授業を聴くようにしてください。もちろん、教員が黒板に書く事柄（板書）だけではなく、教員が話したことで自分が「重要だな」と思ったことは積極的にメモをとりましょう。ノートの取り方、書き方全般は自由としますが、年度初めの授業において、ノートのとりかたなどのガイダンスをする予定ですので、参考にしてください。

(3)　復習について

理想をいえば、その日学習したことはその日のうちに復習するということでしょう。しかし、国語、数学、英語など予習、復習をしなければならない科目がたくさんあります。地歴公民科では、一週間ごとにまとめて復習することを提案しています。世界史Ａは２単位ですので、二時間分について（教科書の２ページ～4 ページ程度）一週間に授業が進みます。それを週末にノートにまとめをつくることで、歴史の流れや重要な言葉を理解して欲しいと考えています。このようにして、できるだけ復習に時間をかけて欲しい理由は、復習しなければ、知識はもとより思考力、判断力が身につかないからです。特に大学や公務員試験を受験しようと考える人は、復習することの重要性を認識してください。

〈学習アドバイス〉
時間と手間をかけずにものごとをマスターする方法はありません。じっくりと時間の許す限り何度も復習に取り組んでください。できれば、繰り返し勉強するための基礎的な問題集を１冊（世界史Ａの問題集はほとんどありませんので、世界史Ｂの問題集を求めると良いでしょう）手元におき、勉強してほしいと思います。

3　評価について

(1)　評価の観点

観　点	趣旨
①　関心・意欲・態度	近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心に対する関心を高め、歴史上の諸課題について、意欲的に取り組むことができるか。また、授業や課題にしっかりと取り組めるのかを評価します
②　思考・判断・表現	近現代史を中心とする世界の歴史から課題を見出し、世界史的視野にたって多面的に考察できるか。また、考察したり判断したりした過程を適切に表現できるかを評価します。
③　資料活用の技能	資料や情報を効果的に活用することや適切に選択することができるかを通して、歴史的事象について追究する学び方を身につけいるかを評価します。
④　知識・理解	近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な知識を身につけているか。また、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解しているかを評価します。

(2)　評価の方法（以下観点①～④は「(1)　評価の観点」と対応する）

評価材料 観　点	割合	定期考査・確認テスト 実力テスト	小テスト	ノート	ワーク	定期考査	課題等
①　関心・意欲・態度	25%	教科書教材の知識等に関わる問題、ノート・ワーク提出、夏季・冬季休業中のレポートなど	○	○	○	○	○
②　思考・判断・表現	25%	考査における論述問題、ワークシートでの作業など	○			○	○
③　資料活用の技能	25%	考査における論述問題、ワークシートでの作業など	○			○	○
④　知識・理解	25%	教科書教材の知識等に関わる問題など	○			○	○

〈担当者からのメッセージ〉
伝えたいおよその事柄については、このシラバスにおいて記載しましたので、じっくりと読み返していただきたいと思います。授業での疑問点や成績のこと、単位認定などの不明な点は、いつでも担当の教員に質問してください。それぞれの質問について個別に対応したいと考えています。1 年間、一緒にがんばって勉強していきましょう。

【普通科】　１年次　【必修】科目「 世界史Ａ 」授業のシラバス

４　授業計画

月	単元	時数	学習内容	観点別評価	到達目標	考査等
前期 4	世界の一体化と日本 第一章 ユーラシアの諸文明	6	・東アジア ・南アジア ・東南アジア	①②③ ①②③ ③④	・東アジアの特質と中国皇帝政治と北方民族との関係を理解ができる。 ・南アジア・東南アジアの特質について理解ができる。 ・中国と周辺諸国との関係やつながりを諸資料に基づき表現できる。	
5		8	・西アジア ・ヨーロッパ ・アフリカ	①②③ ①②③ ③④	・西アジアで古くから文明が栄えた背景を理解できる。 ・ヨーロッパの地中海で文明が栄えた背景を理解できる ・西アジアと地中海ヨーロッパ、アフリカとの関係やつながりを諸資料に基づき表現することができる	
6	第二章 結びつく世界と近世の日本	6	・14～15 世紀の東アジア ・清と東アジア ・大航海時代 ・宗教改革	①②③ ①②③	・14~15世紀の東アジアの特質を理解できる。 ・16~18世紀のヨーロッパの特質を理解できる	前期中間考査
7		8	・ヨーロッパ主権国家体制の成立	③④	・14~18世紀の東アジアとヨーロッパとの関係やつながりを諸資料に基づき表現することができる。	
8	第三章 ヨーロッパ･アメリカの工業化と国民形成	4	・産業革命 ・アメリカ独立革命 ・フランス革命 ・ウィーン体制 ・アメリカ社会の膨張	①②③ ①②③ ③④	・産業革命が起きた背景と特質を理解できる。 ・欧米で市民革命が起きた背景と経過を理解できる ・産業革命や市民革命が諸外国に与えた影響や関係性について諸資料に基づき表現することができる。	
9	第四章 アジア諸国の変貌と近代の日本	6	・世界市場の形成 ・南アジア植民地化とインド帝国	①②③ ③④	・18~19世紀のアジア諸国の変容とその特質を理解できる。 ・18~19世紀のアジア諸国の変容と諸外国との関係性について諸資料に基づき表現することができる。	前期期末考査
後期 10		10	・清の動揺			
11	地球社会と日本 第一章 帝国主義の時代	10	・帝国主義の時代 ・列強の世界政策 ・大衆の登場と国民統合	①②③ ③④ ①②③	・帝国主義の背景・各国の諸政策の特質を理解できる。 ・帝国主義による諸政策と諸外国に与えた影響や関連性について諸資料に基づき表現することができる。 ・大衆社会の背景と特質について理解できる。	後期中間考査
12	第二章 急変する現代社会 第三章 世界戦争と平和	6	・第一次世界大戦 ・ベルサイユ・ワシントン体制 ・アメリカとヨーロッパ ・ファシズムの台頭 ・第二次世界大戦	①②③ ③④	・二つの世界大戦の背景や各国の諸政策の特質を理解できる。 ・二つの世界大戦の背景や、諸外国との関係性について諸資料に基づき表現することができる。	
1	第四章 三つの世界と日本の動向	4	・戦後世界の出発 ・戦後の東アジア ・戦後の西アジア・アフリカ ・第三世界の台頭	①②③ ③④	・戦後社会の特質と各国の動向を理解できる。 ・戦後社会の各国の動向と関係性について諸資料に基づき表現することができる。	
2		6	・変容する冷戦	①②③ ③④	・冷戦終結後の社会の特質と各国の動向を理解できる。 ・冷戦終結後の各国の動向と関係性について諸資料に基づき表現することができる	後期期末考査
3	第五章 地球社会への歩みと課題 第六章 持続可能な社会への展望	4	・アメリカの動揺 ・東アジア・東南アジアの変容 ・西アジア・アフリカ・ラテンアメリカの変容 ・冷戦の終	①②③	・ ・現代社会の特質や未来に向けての課題を理解できる。	
		78				

※　観点別評価①は関心・意欲・態度、②は知識・理解、③は思考・判断・表現、④は資料活用の技能を表しています。
※　授業計画は進度により前後することがあります。